

受領No.1471

## 20世紀における中国の地方隆盛と革命勢力 —— 電信事業を中心に

代表研究者 白鳥 翔子 お茶の水女子大学 博士後期課程

### China's local prosperity and revolutionary forces in 20th century: Focusing on Telecommunication.

Representative SHIRATORI Shoko, Ochanomizu university, Doctoral student



#### 研究概要

本研究では、20世紀の中国を研究対象として、地方と革命勢力の関係について研究を進めていく。

19世紀末から20世紀初頭にかけて、中国の社会経済には大きな変化が生じた。中国国内では、外国人商人の貿易活動の拡大や、内陸地域への鉄道敷設による内陸産品及び近代的工業製品の輸出入が増加した。さらに日清戦争後に締結された下関講和条約によって、中国国内に外資系の企業の工場が開設可能となった。また国際貿易に関わる必要性から、鉄道・汽船・電信などの交通通信網が整備拡充された。一方、清朝も各省の地方官（総督・巡撫）らが、自身の所轄の省に軍需工場や紡績場、鉱山業などの西洋の技術を取り入れた産業を興した。地方官たちはこれらを利権や権力基盤として抱えるようになっていった。

本研究では交通通信網の一つである電信事業について、対象地域を南西部の雲南省に設定し（雲南省では当時、錫の輸出による急速な経済発展と革命勢力の台頭があった）、①地方が政治・経済的優位を獲得していくにあたって、電信事業がどのような影響を及ぼしたのか、また②電信技術そのものの進歩によってどのような社会的変化があったのかについて明らかにすることを目的とする。